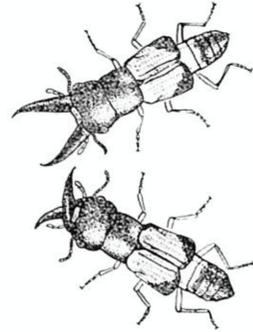


COLEOPTERISTS' NEWS

甲虫ニュース

No. 38

(July 1977)



日本産ミズスマシ科概説(2)

佐藤正孝

Subfamily Enhydrinae オオミズスマシ亜科

亜科名に関して、長く Enhydrinae が用いられてきたのであるが、GUIGNOT (1954) は模式属である *Enhydrus* CASTELNAU, 1835 が *Enhydrus* DAHL, 1823 (ガムシ科) と *Enhydrus* RAFINESQUE, 1815 (爬虫類) に先取されている事実をあげ、属名に *Prothydrus* を与え、亜科名を Prothydrinae とした。それに対して BALFOUR-BROWNE and BRINCK (1961) は、*Enhydrus* RAFINESQUE, 1815 は *Enhydris* LATREILLE, 1802 の綴りを誤って用いたものであるとし、*Enhydrus* DAHL, 1823 は単に属名がリストの中で示されただけであるうえに、その著者は MEGERLE (リストの中では、v. M. と略記されている) であり、彼によって正式に印刷公表されていない事実と併せて、DAHL のリストは科学目的の出版物と認められていないとしている。さらに、*Enhydrus* MACLEAY, 1828 (ガムシ科) があるが、この属は *Helochares* MULSANT, 1844 と同物であり、後者がすでに 115 年にわたり常用されてきた事実から、命名法上の強権発動によって前者の使用を禁止した。このような経緯から、亜科名は従来通り、*Enhydrus* CASTELNAU, 1835 を模式属とする Enhydrinae を用いるのがよいようである。

この亜科は大型種を多く含み、主として熱帯から亜熱帯にかけて分布し、5 属が知られている。日本に産するのは *Dineutus* 属だけであるが、*Porrhorrhynchus* 属は約 10 種がインドからボルネオにかけて、*Macrogyrus* 属は約 25 種がオーストラリアに、*Enhydrus* 属は 4 種が南アメリカに、*Androgyrus* 属は 6 種が南アメリカにそれぞれ分布している。

Genus *Dineutus* MACLEAY, 1825 オオミズスマシ属

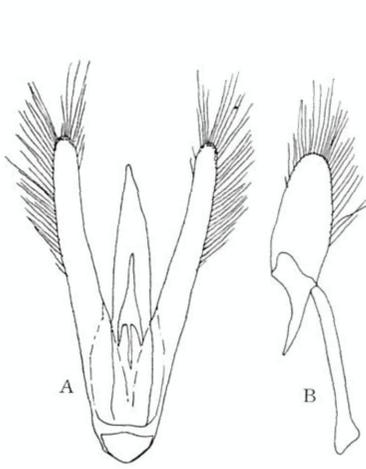
広く世界各地に分布し、約 90 種が知られている。この属は 8 亜属に分けられるが、日本産のものはつぎの検索に示す 3 亜属に分けられ、それぞれに 1 種

づつが知られているにすぎない。

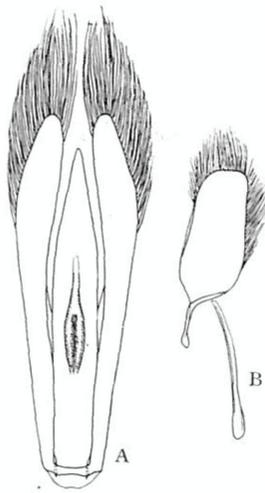
- 1 (2) 体は幅広い楕円形。上翅側縁後方に棘状突起を具えない。大型種……………*Dineutus* s. str.
- 2 (1) 体は長楕円形。上翅側縁後方に棘状突起を具えるが、ときに♀はこれを欠く。小型種。
- 3 (4) 前胸背および上翅外縁は黄色く縁取られている。上翅は側縁後方に顕著な棘状突起を具え先端は鋭く突出する……………*Spinodineutes* HATCH
- 4 (3) 前胸背および上翅の外縁は黄色く縁取りされない。上翅は側縁後方に♂では不明瞭な棘状突起を具えるが、♀はこれを欠き、先端は截断状となる……………*Cyclous* HATCH

1. *D. (Dineutus) mellyi* RÉGIMBART, 1882 オキナワオオミズスマシ

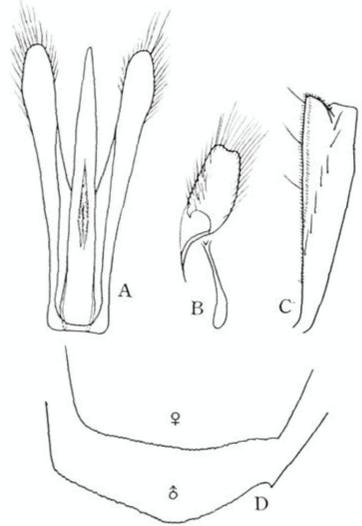
この種は、日本産ミズスマシの中では最も大きい。最初、“China”を原産地として記載されたものであるが、その後インドからインドシナ半島を経て、中国、台湾に広く分布していることが判った。琉球列島に産するものは、原名亜種に比べて、体幅がやや狭く背面の網目構造がより強く、点刻は弱く、光沢が僅かに強く、♂交尾器中央片は先端へより狭まるなどによって subsp. *insularis* RÉGIMBART, 1907 とされている。背面の網目構造や点刻、♂交尾器などが琉球列島内の個体では島ごとに多少の変化が認められるが、同一亜種の連続的変異と考えても差しつかえない。現在知られている分布の北限は MOUCHAMPS (1951) による奄美大島であるが、最近多くの人が琉球列島を訪れているにもかかわらず、その記録は徳之島までで、奄美大島からは採れていない。この種について、日本では松村 (1906) により *D. indicus* AUBÉ, 滝沢 (1931) および神谷 (1936) により *D. mellyi* として記録されていた。琉球列島では普通のミズスマシで、ややうす暗い森林中の溪流のよどんだ所に群をなして泳いでいる。そのせいもあってか、開発などの打撃をうけ易く、近年非常に個体数が少なくなったようである。



第6図 オキナワオオミズスマシの交尾器 A: ♂ B: ♀



第7図 オオミズスマシの交尾器 A: ♂ B: ♀



第8図 ツマキレオオミズスマシの交尾器 A: ♂交尾器 B: ♀交尾器 C: 前脛節 D: 翅端

体長: 15—20mm.

分布: インド, ベトナム, 中国, 台湾, 琉球列島 (徳之島以南)

2. *D. (Spinodineutes) orientalis* (MODEER, 1776) オオミズスマシ

この属の種としては, 最も北まで分布を拡げている種で, シベリアでの記録もある。この種は“China”を原産地として記載されたが, SHARP (1873) が *D. marginatus* として日本 (Nipon, Kushiu) から, FAIRMAIRE (1878) が *D. quadrispina* として中国からそれぞれ記載している種はいずれも synonym である。

各地に極く普通の種で, 小川, 水田, 池などに生息している。体が南のものほど小さく, 北へ行くと一見別種かと思うくらい大きくなる。

体長: 7—12mm.

分布: ベトナム, 中国, 満州, 朝鮮, シベリア, 樺太, 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州), 琉球列島

3. *D. (Cyclous) australis* (FABRICIUS, 1775) ツマキレオオミズスマシ

オーストラリアから太平洋の島々を経て, 琉球列島まで広く分布するせいもあってか, *D. rufipes* (FABRICIUS), *dentipennis* MACLEAY, *limbatus* MACLEAY, *iridis* HOPE, *janthinus* BLANCHARD, *leucopoda* MONTROUZIER など多くの synonym が知られている。Fiji 諸島の Niaufu のものは subsp. *ultimus* OCHS として分けられているし, 琉球列島のものは筆者 (1962) が subsp. *tokunoshimanus* としてつぎの特徴によって分けた。体はやや小さいが強壮であり, 体表の点刻はやや強く, 上翅の先端はあまり突出しなく, 前脛節の外縁が僅かに湾曲し, 前縁角が鋭く, ♂交尾器中央片がやや細いなどである。分布が広く, オーストラリア産のものとの比較

では上記の特徴によって分けられるが, 各地の標本を調べてみると変異が連続するようでもあり, 強い亜種として区別する必要がないかも知れない。

この種は, 池や水田に多く, トカラ群島では非常に珍しいが, 八重山群島では僅かな水溜りにさえも生息している。

体長: 7.8—8.4mm.

分布: オーストラリア, ニューゼーランド, ニューカレドニア, ニューギニア, バリ, ジャワ, ロンボック, フィリピン, マレー半島, 台湾, フィジー諸島, 琉球列島 (トカラ群島以南)

Subfamily Gyirininae ミズスマシ亜科

小型の種が主体で, つぎの検索に示す2族に分けられる。

- 1 (2) 後胸板翼片はほぼ正三角形。後基節の隆起線で境される後部は前部とほぼ同じ大きさである。頭楯側端突起は小さい。前胸と上翅の側部に微毛を具える。上翅の点刻列は9条…………… Heterogyriini BRINCK
- 2 (1) 後胸板翼片は細長い三角形。後基節の隆起線で境される後部は前部よりもはるかに大きい。頭楯側端突起は大きい。前胸と上翅の側部は滑沢で微毛を具えない。上翅の点刻列は11条…………… Gyriini RÉGIMBART

Tribe Heterogyriini BRINCK, 1959

マダガスカルに産する1属1種 *Heterogyrus milloti* LEGROS, 1953 で作られた特異な族で, ミズスマシ亜科とオオミズスマシ, オナガミズスマシ亜科の中間的存在である。

(名古屋女子大学)

キイロチビハナケシキスイの生態

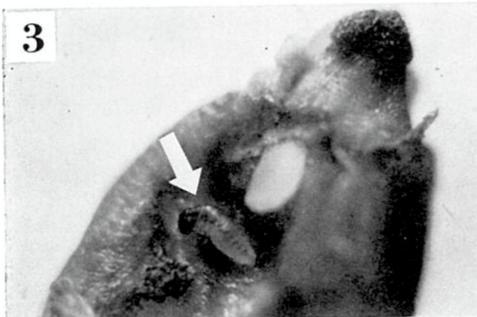
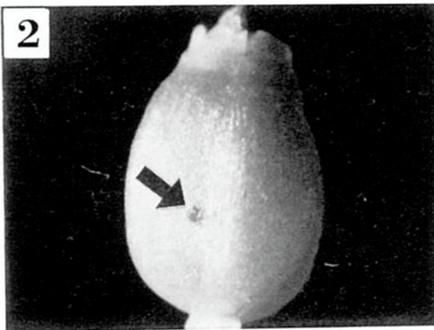
林 長 閑

Heterhclus 属はスイカズラ科のニワトコの花に集まることで知られている。神奈川県でニワトコの花を調べたところ、平地にはキイロチビハナケシキスイ *H. japonicus* REITTER が、山地にはキイロチビハナケシキスイと *H. morio* REITTER が多くみられた。これらの種はニワトコの一つの花の集団（散房花序からなる）におびただしい数をみることも珍らしくない。春早くから出現するキイロチビハナケシキスイの生態をここに記録しておきたい。ケシキスイの種名を調べてくださった愛媛大学久松定成氏に心から感謝したい。

4月、ニワトコの開花と共に成虫が飛来（写真1）、花上で交尾・産卵をする。ふ化した幼虫は子房の中へもぐりこむ（4月中旬、子房の中へ懸命にもぐり

こもうとする幼虫数個体を観察した）。写真2の矢印は子房に残された侵入痕。子房の中には写真3の矢印のように1齢幼虫がみられる。この写真の上部の白色部はまだ未熟な種子。幼虫は種子の成熟を待ち、数日後には種子の中へ食い入り、1個の種子の中で終齢（恐らく3齢）まで育つ。したがって早く摘みとった子房の中では幼虫は死ぬ。また、ニワトコは子房内に3個の種子を形成するが他の2個の種子には侵入しない。5月中旬、ニワトコの子房が丸い実となるころ、幼虫は写真4と5のように果皮を食い破って外に出る。写真6は実に残された脱出孔。幼虫は落下し、土中にもぐって蛹化する。6月中旬ごろまでにはすべての個体が成虫となるが、地表へ出現しないことから翌年の春まで土中で静止するものと考えられる。本年5月、横浜市内で採取した300粒の実から42個体の幼虫が這い出したことからあきらかなように本種の寄生率は一般にきわめて高い。

（横浜市港北区）



○ピロウドコガネ類の分布記録 4 題

近年、コガネムシ類の分布については、かなり多くの記録が見られるようになってきている。しかしながら、ピロウドコガネ類の分布については、比較的その報告数は少ないようである。そこで、断片的な記録ではあるが、ピロウドコガネ類のうち特に *Serica*, *Sericania* 及び *Nipponoserica* の 3 属について、筆者の手許にある標本を基に、記録しておくことにした。愛好者諸氏の参考になれば幸いである。

なお、本編の *Sericania* 属, *Nipponoserica* 属の学名の取り扱いについては、野村 (1976: 桐朋学報, 第 26 号: 167—205) の扱いに従った。

1. 宮城県蔵王山 (カモシカ温泉)

1. *Serica nipponica* (NOMURA) ヤマトピロウドコガネ
6♂♂, 3♀♀, 24. vii. 1976. 秋山黄洋採集.
2. *Serica karafutoensis honshuensis* (NOMURA) エゾピロウドコガネ亜種
5♂♂, 7♀♀, 24. vii. 1976. 秋山黄洋採集.
3. *Serica nitididorsis opacidorsis* NOMURA ホソヒゲナガピロウドコガネ亜種
15♂♂, 10♀♀, 24. vii. 1976. 秋山黄洋採集.
4. *Sericania lewisi* ARROW ルイスチャイロコガネ
6♂♂, 1♀, 22—23. vi. 1974. 黒沢良彦採集;
1♂, 1♀, 24. vii. 1976. 秋山黄洋採集.
5. *Sericania kamiyai* SAWADA カミヤチャイロコガネ
1♂, 22—23. vi. 1974. 黒沢良彦採集; 1♂,
24. vii. 1976. 秋山黄洋採集
6. *Sericania tohokuensis* SAWADA トウホクチャイロコガネ
2♂♂, 1♀, 22—23. vi. 1974. 黒沢良彦採集.

2. 愛知県段戸山

1. *Serica boops* WATERHOUSE ヒゲナガピロウドコガネ
2♂♂, 2♀♀, 8. vii. 1972. 松野更一採集;
4♂♂, 17♀♀, 1. viii. 1976. 小林裕和採集.
2. *Serica incurvata* (NOMURA) アンマガリピロウドコガネ
1♂, 2♀♀, 2. viii. 1972. 松野更一採集; 13♂♂,
5♀♀, 1. viii. 1976. 小林裕和採集.
3. *Serica ovata* (NOMURA) マルヒゲナガピロウドコガネ
1♂, 1♀, 1. viii. 1976. 小林裕和採集.
4. *Nipponoserica pubiventris* NOMURA ハラゲピロウドコガネ
1♂, 1. viii. 1976. 小林裕和採集.

3. 和歌山県護摩ノ檀山

1. *Serica trichofemorata* (NOMURA) モモケピロウドコガネ
4♂♂, 3♀♀, 8. vii. 1972. 小林裕和採集.
2. *Serica brevitarsis rectipes* NOMURA コヒ

ゲナガピロウドコガネ亜種.

1♂, 27. vii. 1967. H. NARA 採集.

3. *Serica boops* WATERHOUSE ヒゲナガピロウドコガネ

7♂♂, 2♀♀, 8. vii. 1972. 小林裕和採集.

4. *Sericania kobayashii* NOMURA コバヤシチャイロコガネ

1♂, 2♀♀, 8. vii. 1972. 小林裕和採集.

5. *Nipponoserica gomadana* NOMURA ゴマダンピロウドコガネ

10♂♂, 2♀♀, 8. vii. 1972. 小林裕和採集.

Sericania kobayashii, *Nipponoserica gomadana* の 2 種はいずれも護摩ノ檀山山頂付近での夜間採集により得られたもので、1976年野村鎮氏により新種として記載されたものである。上記に示した個体は、全て type series に含まれている。

4. 徳島県剣山

1. *Serica brevitarsis rectipes* NOMURA コヒゲナガピロウドコガネ亜種

76♂♂, 9♀♀, 27—28. vii. 1972. 坂 芳則採集.

2. *Serica pilosa* (NOMURA) ケブカピロウドコガネ

1♂, 27. vii. 1972. 坂 芳則採集.

3. *Serica nitididorsis opacidorsis* NOMURA ホソヒゲナガピロウドコガネ亜種

87♂♂, 21♀♀, 27—28. vii. 1972. 坂 芳則採集.

4. *Serica yoshidai* (NOMURA) ヨシダピロウドコガネ

28♂♂, 54♀♀, 27—28. vii. 1972. 坂 芳則採集.

5. *Serica boops* WATERHOUSE ヒゲナガピロウドコガネ

4♂♂, 1♀, 27—28. vii. 1972. 坂 芳則採集.

四国では、現在までに本属は 7 種 (*pilosa*, *brevitarsis rectipes*, *boops*, *planifrons*, *nitididorsis opacidorsis*, *nitidiceps*, *yoshidai*) が知られている。このうち *yoshidai* は四国特産種で、他の地域での分布記録は知られていない。(練馬区, 小林裕和)

○タカサゴツタマムシ 4 月の記録

タカサゴツタマムシ *Paracylindromorphus formosanus* (MIWA & CHŪJŌ, 1935) は台湾阿里山において 1918 年 10 月 2—23 日 楚南仁博士が 1♂ 1♀ 採集されたものにより記載された。その後長らく採集されたという報告はなかったが、今年台湾へ行かれた鈴木互氏の採集品の中に本種を見出したので報告する。

1 ex., 台湾南投県日月潭, 6. iv. 1977. 鈴木互採集.

比較的近縁の *Aphanisticus* 属の中に成虫越冬するものがあるので、おそらく本種も成虫越冬するものと考えられる。

(横浜市, 秋山黄洋)

○ソテツを食害するコメツキモドキ

コメツキモドキ科は幼虫、成虫ともに生きた植物体を加害する甲虫である。幼虫は植物組織内に食い入りこれを食害することから、古くからイネやアワの害虫として知られ、農業試験場などの報告にヒザグロヒメコメツキモドキ *Anadastus menetriesi*, アカヒメコメツキモドキ *A. filiformis* の名が見られる。コメツキモドキ科の食草としては、黒沢良彦 (1968, 甲虫ニュース No.4), 林長閑 (1974, 昆虫と自然 Vol. 9, No.7) などの報告がある他、キムネヒメコメツキモドキ *A. atriceps* がマメザヤタケを、ニホンホホビロコメツキモドキ *Daubledaya bucculenta* がメダケをそれぞれ食害する事が知られている。しかし、ソテツ *Cycas revoluta* を食害するコメツキモドキについては一般にあまり知られていない。今回報告するのは1976年5, 6月台湾を訪れた際、台湾のほぼ中央、南投県蓮華池の林業試験場で観察したものである。

観察できたのは1976年5月28日～31日, 6月24日で、食害を確認できたコメツキモドキはザウテルヒメコメツキモドキ *Anadastus sauteranus*, アシグロヒメコメツキモドキ *A. melanosternus*, ホソヒメコメツキモドキ *A. angustior* の3種である。これらはいずれも台湾全土に普通に産し、シダ類などのピーティングによってよく得られる種類である。

食害されたソテツは林業試験場の植え込みに植えられて1～2年たった高さ40～60cmのもので、6本あるうち3本が加害されていた。3本とも新芽はすでに食害されて枯れ、古い葉しか残っておらず、そのうち1本は6月24日に観察した時には完全に枯れていた。おそらく最初に新芽を食害しソテツが弱ってから古い葉を食べ始めるのだろう。葉の食害部分は羽状に分裂した小葉が最も被害が大きい、体の大きいザウテルヒメコメツキモドキ (7mm前後) は固い主脈の部分をも食害していた。個体数はホソヒメコメツキモドキが最も多く、1本に100頭前後、アシグロヒメコメツキモドキが50頭位、ザウテルヒメコメツキモドキは30頭位であった。1本についているコメツキモドキを全部採集しても数時間後にはまた同じ位の個体数が集まることから考えて付近にはかなりの数のコメツキモドキが発生しているであろう。時間による個体数の変化は晴天の5月29日で早朝は少なく、午前9時頃から個体数が増え始め11時から午後2時頃にかけて最も多く、盛んに飛翔し、葉上で交尾する個体もいくつも見られたが、その後は飛翔する個体も少なくなり4時頃には1本に50頭位に減少した。しかし午後8～9時にもほぼこれと同数の個体が観察できたため、夜間もかなり食害しているものと思われる。これらの観察は主に5月28～31日にかけて行ったものであるが、6月24日に再びこの場所を訪れた時には数日前に林業試験場の所長が殺虫剤をまいたということで、3本のソテツからは数頭のコメツキモドキが得られただけであった。ソテツは1本は完全に枯れ、残りの木は葉が赤褐色

に変わり枯れる寸前の状態であった。

(東京農大, 久保田正秀)

○隠岐島のハネカクシ (ハネカクシ科分布資料6)

筆者は1969年、松江市で開催された昆虫学会大会に参加する機会を利用して隠岐島(島後)に立ち寄り、ハネカクシ類の採集を行った。しかし、極めて短い採集期間であったため、その成果は充分なものではなかったが、その後、松江市在住の門脇久志氏より若干の同島産ハネカクシ類の御恵送を受けたので、先の採集品とともに記録し門脇氏の御厚意に報いたい。

現在まで隠岐島から記録されたハネカクシ類は「島根県環境保全地域(候補地)学術調査報告書付属資料(島根県自然保護課, 1975)」によって集録されている次の5種類である。キイロハナムグリハネカクシ *Eusphalerum parallelum* (SHARP) (学名を *Anthobium parallelum* として記録)、アオバアリガタハネカクシ *Paederus fuscipes* CURTIS, ムネスジコガシラハネカクシ *Philonthus rutiliventris* SHARP, アカバハネカクシ *Platydracus paganus* SHARP, ダイミョウキノコハネカクシ *Lordithon daimio* (SHARP)。

ただし、上記の文献中には神谷一男・山本玄(関西昆虫学会々報, 1934, (5): 40)によって *Staphylinus daimio* SHARP なる学名で記録されたダイミョウハネカクシが削除されている。この処置についての説明はなされていない様だが、真のダイミョウハネカクシは現在のところ北海道のみから発見されているので、隠岐島での生息を疑問視した結果かと推測される。

なお、下記の採集データの中で筆者によって採集された個体については、いずれも採集者名を省略した。

1. *Lispinus impressicollis longulus* SHARP チビソハネカクシ
6頭, 大満寺山, 島後, 27. ix. 1969.
2. *Carpelimus (Carpelimus) vagus* (SHARP) ニセニセミゾハネカクシ
3頭, 有木, 島前, 23. viii. 1969, 門脇久志採集.
3. *Oxytelus (Oxytelus) migrator* FAUVEL
3頭, 西郷, 島後, 29. ix. 1969.
4. *Stenus (Hypostenus) rufescens* SHARP トビイロメダカハネカクシ
6頭, 大満寺山, 島後, 27. ix. 1969; 5頭, 横尾山, 島後, 28. ix. 1969.
5. *Nazeris wollastoni* (SHARP) アバタコバネハネカクシ
1頭, 大満寺山, 島後, 27. ix. 1969.
6. *Astenus latifrons* (SHARP) キアシクシロクビソハネカクシ
1頭, 仏谷, 島後, 7. vi. 1969, 門脇久志採集.
7. *Medon lewisius* SHARP ネアカトガリハネカクシ
1頭, 大満寺山, 島後, 27. ix. 1969.

8. *Lithocharis nigriceps* (KRAATZ) クロズトガ
リハネカクシ
1頭, 有木, 島前, 23. viii. 1969, 門脇久志採集;
29頭, 西郷, 島後, 29. ix. 1969.
9. *Nudobius apicipennis* SHARP ツマキツヤナ
ガハネカクシ
7頭, 大満寺山, 島後, 27. ix. 1969.
10. *Megalinus tubulus* (SHARP) ホソガタナガハ
ネカクシ
1頭, 都万目, 島後, 7. vi. 1969, 門脇久志採集.
11. *Philonthus (Philonthus) rectangulus* SHARP
カクコガシラハネカクシ
2頭, 西郷, 島後, 29. ix. 1969.
12. *Philonthus (Philonthus) tardus* KRAATZ ヘ
リアカバコガシラハネカクシ
3頭, 西之島, 島前, 11. viii. 1969, 門脇久志採
集; 3頭, 大満寺山, 島後, 27. ix. 1969.
13. *Philonthus (Bisnius) amicus* SHARP
1頭, 西郷, 島後, 29. ix. 1969.
14. *Philonthus (Bisnius) sulcifrons* SHARP
3頭, 西郷, 島後, 29. ix. 1969.
15. *Philonthus (Bisnius) aeneipennis* BOU. ド
ウガネコガシラハネカクシ
1頭, 大満寺山, 島後, 6. vi. 1969, 門脇久志採
集; 5頭, 西郷, 島後, 25. ix. 1969.
16. *Philonthus (Bisnius) wusthoffi* BERNH. ヒ
メホソコガシラハネカクシ
1頭, 西郷, 島後, 29. ix. 1969.
17. *Cafius rufescens* SHARP アカウミベハネカ
クシ
8頭, 中村, 島前, 10. viii. 1969, 門脇久志採集.
18. *Cafius vestitus* (SHARP) アバタウミベハネカ
クシ
22頭, 都万, 島後, 29. ix. 1969.
19. *Hesperus tiro* (SHARP) ツマドロアカバハネ
カクシ
1頭, 大満寺山, 島後, 24. viii. 1969, 門脇久志
採集.
20. *Phuccobius simulator* SHARP ウミベアカバ
ハネカクシ
2頭, 中村, 島前, 10. viii. 1969, 門脇久志採
集; 18頭, 都万, 島後, 29. ix. 1969.
21. *Ontholestes gracilis* (SHARP) サビハネカクシ
1頭, 大満寺山, 島後, 6. vi. 1969, 門脇久志採
集; 7頭, 大満寺山, 島後, 27. ix. 1969.
22. *Algon grandicollis* SHARP ムネビロハネカク
シ
1頭, 大満寺山, 島後, 27. ix. 1969.
23. *Quedius (Quedius) parviceps* SHARP コガシ
ラツヤムネハネカクシ
1頭, 横尾山, 28. ix. 1969.
24. *Sepedophilus varicornis* (SHARP) クロヒメキ
ノコハネカクシ
1頭, 大満寺山, 島後, 27. ix. 1969.

25. *Tachinus japonicus* SHARP ヤマトマルクビ
ハネカクシ
1頭, 横尾山, 島後, 28. ix. 1969.

(東京農大, 渡辺泰明)

○佐渡ヶ島のヒゲナガゾウムシ

昨年, 甲虫談話会の例会で馬場金太郎博士に御目
にかかる機会を得た。その折, 筆者がヒゲナガゾウ
ムシ類に関心を持っていることをお話しし, 今後の
御指導御鞭撻をお願いした所, 早速に多数の標本の
御恵与を受けた。それらのほとんどは同博士が長年
にわたって新潟県下で採集された個体であった。こ
れらの全種の同定は未だ終了していないが, 同定の
なし得た佐渡ヶ島産のヒゲナガゾウムシ類について
のみ記録し同博士の御厚意に報いたい。

なお, 私の知る限りでは佐渡ヶ島からのヒゲナガ
ゾウムシ類の記録は皆無である。

1. *Choragus cissoides* SHARP ゴマノミヒゲナガ
ゾウムシ
1頭, 大倉, 20. vi. 1963, 馬場金太郎採集。
Choragus 属は現在まで本邦から 8 種記録されて
いるが, いずれも微小で, 形態は酷似している。上
記個体はチャンチンの材の中より採集されたという。
2. *Araecerus fasciculatus* DEGEER コーヒーヒ
ゲナガゾウムシ
1頭, 大倉沢, 31. v. 1963, 鶴巻静治採集; 2 頭,
大倉, 20. vi. 1963, 馬場金太郎採集。
本種は広域分布種で世界各地に分布している。他
に近縁種が数種いる。
3. *Tropideres rcelofsi* LEWIS クロフヒゲナガ
ゾウムシ
1頭, 水津, 27. iv. 1967, 馬場金太郎採集。
4. *Tropideres laxus* SHARP カオジロヒゲナガ
ゾウムシ
1頭, 小田, 20. vi. 1963, 馬場金太郎採集; 1 頭,
金泉, 20. vi. 1963, 馬場金太郎採集。
5. *Tropideres germanus* SHARP キマダラヒゲ
ナガゾウムシ
3頭, 大倉, 13. v. 1962, 馬場金太郎採集; 1 頭,
大倉沢, 31. v. 1963, 鶴巻静治採集。
本種は本邦全土に分布しており, 一般に北海道産
の個体群は上翅の白色斑が発達するようであるが,
上記個体もそのような傾向が認められる。
6. *Andrcceras flabellicornis* (SHARP) シリジロ
ヒゲナガゾウムシ
1頭, 大倉, 25. v. 1962, 鶴巻静治採集; 1 頭,
大倉沢, 31. v. 1963, 鶴巻静治採集; 1 頭, 矢柄,
20. vi. 1963, 馬場金太郎採集。
7. *Platystomus sellatus* ROELOFS シロヒゲナ
ガゾウムシ
1頭, 大倉, 6. vi. 1962, 鶴巻静治採集。
上記以外に *Ozotomerus* 属の 1 種が採集されて
いるが, 現在種名を確定するまでに到っていないの
で後日報告することにした。
- 末筆ながら貴重な標本を御恵与され, 筆者による

報告を許された馬場金太郎博士及び種々の御教示を賜った東京農大の渡辺泰明助教授に心から御礼申し上げます。
(東京農大, 妹尾俊男)

○小笠原諸島の食葉性コガネムシ類

小笠原諸島から記録されている食葉性のコガネムシは極めて貧弱で、日本本土から移入されたセマダラコガネ *Blitopertha orientalis* WATERHOUSE と小林裕和 (1973: New Entomol., 22 (3・4): 43) によって記録されたヨツバコガネ *Ohkubous ferriei* NONFRIED の黒色のものが産することが知られているに過ぎない。私は1976年6月に同諸島の父島で次の2種を採集したので記録しておく。

1. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY

5♂♂, 父島大村, 19~20. vi. 1976, 黒沢良彦, 入江平吉採集。

いずれも旅館の灯火に飛来したものである。5頭全部が共に小型で緑色、やや唐金色を帯びるもので、恐らく伊豆諸島の型に一致するのではないかと考えている。

2. ヤマトアオドウガネ *Anomala japonica izuensis* SAWADA?

1頭, 父島大村, 18. vi. 1976, 黒沢良彦採集。

大村の旅館で頭胸部の欠如した1頭を拾った。翅鞘ばかりではつきりは断定できないが、小型で光沢が強いので、伊豆諸島の亜種に一致するのではないかと思う。

以上2種類共に父島土着の種類ではなく、本土から、船舶の灯火に來たものが、そのまま船の移動によって父島まで運ばれて來たものと考えてよいであろう。この場合、大体において伊豆諸島の型と一致すると思われるので、運搬者は同方面からの漁船と考えてよいであろう。ヤマトアオドウガネは不完全な1頭だけなのでまだ土着してはいないと思うが、ヒメコガネの方は5頭も2晩にわたり採集されているので、恐らく既に土着していると考えてよいであろう。
(国立科学博物館, 黒沢良彦)

○ウミミズギワゴミムシの記録

ウミミズギワゴミムシ *Sakagutia marina* S. UENO は満干線の間に棲息する珍しいミズギワゴミムシで、砂浜の石下や打ち上げられたゴミ海藻等の下に見られ、太平洋岸は静岡県から兵庫県までの各地、日本海岸は新潟県より記録されている。筆者は本種を神奈川県真鶴岬海岸の汀線に近い小石の下より採集しており、東限の新産地と思われるので報告する。

1♂, 神奈川県真鶴岬, 3. xi. 1976.

採集品は光沢の強い新鮮な個体で吸水管の中で活発に飛びまわっていた。当日採集に同行され、同定並びに種々御教示くださった阿部光典、須賀邦耀、森田誠司の三氏に厚くお礼申し上げます。

(千葉県船橋市, 笠原須磨生)

○隠岐島産アリヅカムシの記録

筆者はかねてからアリヅカムシ科に興味を抱き、

日本各地から採集された種類についての分類学的検討を進めているが、最近検した東京農業大学昆虫学研究室の所蔵標本中に島根県隠岐島から採集された4種のアリヅカムシが含まれているのを見出した。そこで、現在まで同島産アリヅカムシについての報告は皆無であるのでここに記録しておく。

1. *Coryphomus* (*Ancistromus*) *spiniacollis* (SHARP) フタアナムネトゲアリヅカムシ

1♀, 大満寺山, 27. ix. 1969, 渡辺泰明採集。

本種は人吉を模式産地として1883年に記載されたが、その時は *Batrissus* 属に含められていた。しかし、後に JEANNEL が *Coryphomus* 属を創設した時に本種を同属に移すとともに高尾山を新産地として報告している (Révision des Psélaphides du Japon, 1960).

2. *Nipponobythus latifrons* JEANNEL オネヅアリヅカムシ

1♂, 大満寺山, 27. ix. 1969, 渡辺泰明採集。

本種は高知県 Tasuyama 村を模式産地として、1960年に記載されたが、その後本州からも報告されている。しかし採集された個体はすべて雌個体のみで、現在まで雄個体は発見されていなかった。

3. *Batrisceniola dissimilis* (SHARP) アナヅアリヅカムシ

1♀, 大満寺山, 28. ix. 1969, 渡辺泰明採集。

本種は1874年、兵庫県摩耶山を模式産地として、*Batrissus* 属の新種として記載された。しかし、後に JEANNEL (1960, 前出) は本種を模式種として *Batrisceniola* 属を創設した。また、この折に宮の下、中禅寺、高尾山を新たな産地として加えている。

なお、上記以外に *Coryphomus* 属の *Ancistromus* 亜属に含まれる種が採集されているが、本種の形態的特徴は既記載種と一致しないので、今後さらに検討を加えた後に改めて報告したい。

末筆ながら、日頃御指導を賜る東京農業大学昆虫学研究室の渡辺泰明及び文献等で御世話になった相洋高等学校の久保田政雄両先生に心から御礼申し上げます。
(東京農大, 田野口康彦)

○ヒメミズギワアトキリゴミムシの記録

ヒメミズギワアトキリゴミムシ *Demetrius amurenensis* MOTSCHULSKY は国外では東シベリア、満州、千島に、我が国においては北海道浜小清水より知られているにすぎない。

本種は、ミズギワアトキリゴミムシ *D. marginicollis* BATES に似るが小型で、触角第4~11節は褐色~黒褐色である事、頭は眼の後方でせぼまり、側頭に細毛が認められない事により区別される。

筆者は、北海道の湿地を1975年に調査した際に本種を採集しているので、ここに報告しておく。

5♂♂1♀, 庶路(釧路付近), 1. vi. 1975, 筆者採集

1♂, 石狩川河口, 14. vi. 1975, 筆者採集

(東京都港区, 森田誠司)

○キノコホシハナノミの九州からの記録

キノコホシハナノミ *Curtimorda maculosa* (NAEZEN) はヨーロッパ, シベリア, 朝鮮, 樺太, それに日本国内では北海道, 本州, 四国に分布していることが知られている。また生態的には, コゲチャタケなどのキノコに集まるという習性があり, これは他の日本産ハナノミ科甲虫には類を見ないものであろう。

九州からは本種の記録がなかったものと思われるが, 筆者の手許には福岡県産の標本があるのでここに記録しておく。

1 ♀, 福岡県粕屋郡宇美町, 16. vi. 1968, 入江平吉採集。

末筆ながら, いつも標本を恵与いただいている入江平吉氏, ならびに九州のハナノミについて御教示いただいている高倉康男氏に厚くお礼申しあげる。

(横浜市金沢区, 高桑正敏)

○クロケシタマムシ岡山県の記録

Aphanisticus congener E. SAUNDERS クロケシタマムシは, 本州, 九州に分布するが, 比較的珍しいものようである。本種を岡山にて採集することができたので発表したい。

1 頭, 岡山県岡山市吉井, 17. iv. 1977, 筆者採集。吉井川の堤防沿いのアブラナ, ワラビ, スギナなどのスイーピングで採集。採集当日は, 晴天無風であった。(岡山市, 直海俊一郎)

○ケシツブタマムシ石垣島の記録

黒沢良彦氏の日本産タマムシ科概説 (18) : 甲虫ニュース No. 35 (1976) では, *Mastogenius insperatus* Y. KUROSAWA ケシツブタマムシの産地として屋久島, 沖縄本島, 西表島が記録されている。筆者は未整理の採集品を眺めているうちに未記録の石垣島産の本種を見出したので, 新産地として報告しておきたい。

1 頭, 石垣島於茂登岳, 18. v. 1974, 筆者採集 (福岡県宇美町, 入江平吉)

原稿大募集中ノ

甲虫ニュースでは会員諸氏よりの原稿をお待ちしております。記録を死蔵させてしまうことは大変に惜しいことですから, たとえ古い採集記録でもかまいませんのでどしどしお寄せ下さい。

昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5号 (各号 100本 160円)

なお, 無頭針00号もできました。その他, 採集・標本整理用各種器具も取揃えてあります。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

電話 (03) 409-6401 (ムシは一ばん)

振替 東京 21129

志賀昆虫普及社

○フチグロチャイロコガネの記録訂正

筆者が, 本誌 (1975, Nos. 29, 30, p. 5) に報告した「チャイロコガネ属2種の分布」の中で, 山梨県御坂山地及び同県増富鉱泉で得られた個体を, *Sericania marginata* (フチグロチャイロコガネ) として記録したが, その後の研究の結果, 本種は, *Sericania suturalis* NOMURA であることが判ったので, ここに訂正する。(練馬区, 小林裕和)

「日本産甲虫目録」の販売

本誌前々号 (No. 36) に予告致しました「日本産甲虫目録」の第1回分が発刊されましたので, 内訳及び販売方法等についてお知らせ致します。

No. 1 クワガタムシ科 (黒沢良彦) 9頁; No. 2 クロツヤムシ科 (同) 1頁; No. 3 ハンミョウ科 (中根猛彦) 7頁; No. 4 ホソガムシ科 (佐藤正孝) 1頁; No. 5 マルドロムシ科 (同) 2頁; No. 6 ヒラタドロムシ科 (同) 2頁; No. 7 チビドロムシ科 (同) 2頁。

これら各号は分冊せず一括販売することに致します。また, 販売については会計上の混乱等を回避するため談話会では直接タッチせず, 一切を東京通販サービス社に委託することに致しましたので, 購入希望の方は直接東京通販サービス社にお申し込み下さい。

販売価格は1セット (No. 1~No. 7) ¥. 800 (送料別) ですが, 会員は前号同封の割引券を利用すれば (1回限り) ¥. 600 (送料別 ¥. 120) で購入することが出来ます。なお, 東京通販サービス社への連絡は下記の通りです。

〒156 東京都世田谷区千歳局私書箱33号

Tel. (03) 426-6012 郵便振替 東京0-73, 156

東京通販サービス社

甲虫談話会

会費 (1カ年) 1500円, 次号は9月中旬発行予定
投稿〆切は8月20日。

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電話 (364) 2311, 振替 東京 60664

タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥ 5,000, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥ 1,400, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3個以下 ¥ 1,200, 4個以上 ¥ 850 (以下同様), 第2地帯 ¥ 1,400, ¥ 950, 第3地帯 ¥ 1,600, ¥ 1,050. 其他, 各種器具, 針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥ 140)

タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島 2-21-25

電話 (03) 811-4547, 振替 6-113479